

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (尾鷲高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「個に応じ個を生かす教育の実践」 「当たり前前」のことが当たり前前でき、積極的に地域や社会に貢献する生徒の育成
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望を持つ生徒が、自らの目標の実現に取り組んでいる。 身だしなみや言葉遣い、社会生活に必要なマナーが身に付いている。 卒業後、地域を支えるリーダーとなる人材としての資質が備わっている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれの学習目標に対応した教育が実践できている。 社会生活を送る上での「当たり前前」を実践し、生徒の範となっている。 保護者、地域から信頼され、目指す学校像に基づいた指導ができている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 楽しい学校、よくわかり参画意欲の高まる授業、安心して学習できる環境。</p> <p><地域(保護者を含む)> 進路希望の実現、地域を元気にする情報の発信。 地域のリーダーとなる人材の育成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 進路希望を実現させる進学・就職指導</p> <p><中学校> 高校生活を通して成長し、生き生きとした生徒の育成</p>		<p><保護者> 教育活動への支援と協力</p> <p><中学校> 尾鷲高校への進学に向けた連携・協力</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 現在、尾鷲高校は非常に落ち着いた状況にあると考えるが、いまだに他地域からは昔の「こわい」イメージを持たれている。周囲への発信が十分でないのではないか。 尾鷲高校の特色ある学科、例えばシステム工学科は東紀州で唯一の工業が学べる学科であり、尾鷲高校にしかない部活動も含め、もっと魅力を発信できないか。 「総合的な探究の時間」で地元の企業と生徒が出会う機会とともに、自分で考え、課題を見つけ解決していく取組をぜひ継続していただきたい。 学力で一喜一憂している状況もあるが、やる気があるかないかが大きな分かれ目であり、目標が設定できるかが重要である。進学が成果の全てではないことも頭に置いていただきたい。 公務員が合格者なしということが気になる。地元で定住するためには、職に就く必要があるが、公務員はその職の1つであり、公務員試験において、大学卒でなくとも合格するような指導が求められる。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・学習意欲が多様であり、それぞれの進路目標に応じた基礎学力を定着させる必要がある。 早期からの進路意識の確立、特に進学面では、一般入試による大学等進学まで見据えた意識と学力の向上をはかることが課題である。 生徒の多様な進路を実現していくために、将来に対する明確な目的意識を早い段階から持たせることが必要である。また、コミュニケーション力や社会人としてのマナーを確実に身につけておくことが大切である。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上のための組織的な取組を行う必要があるが、学級担任や教科担当者レベルでの個々の動きに留まっている。 学習面や生活面できめ細かな指導が必要な生徒が多く、教員の過重労働時間が多くなる傾向になっている。業務全般について時間管理を意識した効率化をより一層進める必要がある。 毎年度、教職員の転出入が多く、業務の引継ぎが難しい場面がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な学力レベルを引き上げ、各学科、コースの目指す学力の定着を図るため、日々の授業を大切に、その充実をはかる。 ・進路指導における対話を重視し、生徒個々の進路実現に対する理解を深めさせる。 ・社会人として生きるためのマナー、人権感覚、命を大切にする心を育成する。 ・すべての教職員が ICT 機器を活用した教育に積極的に取り組む。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に向け、各分掌の枠にとらわれず学校全体で取り組み、情報を共有する。 ・教職員のスキルアップのための校内研修会を定期的実施する。 ・職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について時間管理を意識した効率化を進め、生徒も職員も生き生きとした学校を目指す。 ・業務の円滑な引継ぎと職員間の連絡・報告・相談を徹底し、効率的な校務運営を行う。 ・風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切に、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。 ・尾鷲高校の魅力的な取組を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

※【自己評価】…◎(達成)、○(おおむね達成)、△(どちらとも言えない)、×(達成できず)

項目	取組内容・指標	結果	備考
①教育活動の充実(教務部)	<p>学力定着のため、自習を年間200時間以内に収める。</p> <p>【成果指標】 年度末に自習時間をカウントし、数値目標(年間200時間)以内であれば達成とする。</p>	<p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習時間は186時間 <p>【自己評価】◎</p>	
②教員によるICT機器活用(教務部)	<p>GoogleのウェブアプリケーションやICT機器の利用を促進し、授業改善の一助とする。</p> <p>【成果指標】 年度末にアンケートを実施。80%以上の教員が利活用によって授業改善できたと評価されれば達成とする。</p>	<p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケート結果より、chromebookやPCを使った授業実践がなされていると言える。 <p>【自己評価】○</p>	
③生徒(特に1年次生)によるICT機器活用(教務部)	<p>Google Classroomを中心に、ドキュメントファイル等を用いた課題の作成・提出を日常的に使えるようにする。</p> <p>【成果指標】 年度末にアンケートを実施し、習熟度を評価し、100%の生徒が十分に習熟していると評価できれば達成とする。</p>	<p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートでは、ほぼ全ての生徒が「学習端末を使って文章やスライドを作成・提出したことがある」「教員からの指示や支援があればできる」と回答した。 <p>【自己評価】○</p>	◎
④専門学科における授業内容の充実と資格取得指導(情報ビジネス科)	<p>1～3年生のカリキュラムを見通した授業を行うことで、年次が進むにつれ、より専門的な知識・技能を獲得できる授業内容を構築する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを実施し、授業満足度80%以上をめざす。 ・1つ以上の資格に合格した生徒80%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートについては、実施できなかった。 ・資格取得は、2・3年は90%以上、1年生はこれから受験。目標は達成されている。 <p>【自己評価】△</p>	

<p>⑤ 専門学科における資格取得指導(システム工学科)</p>	<p>資格取得に向けて、全員に受験指導、補習指導を実施する。 【成果指標】 ・ガス溶接(2年) 80%以上 ・計算技術3級(1年) 100% ・危険物丙種(1年) 80%以上の合格をめざす。 また、昨年度合格率との比較を行う。</p>	<p>ガス溶接(2年) 92%、計算技術3級(1年) 69%、危険物丙種(1年) 全員受験行なわず。 【自己評価】 ×</p>																												
<p>⑥ 専門学科における基礎学力定着指導(システム工学科)</p>	<p>基礎力診断テストでのD3対象者に補習を実施し、基礎学力の定着をめざす。 【成果指標】 次の基礎力診断テストでのD3対象者数と比較する。</p>	<p>D3対象者に補習を行わず、クラス全体に基礎学力の定着を目指した。基礎学力診断テストの結果を示す。</p> <table border="1" data-bbox="869 504 1412 660"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">国語</th> <th colspan="2">数学</th> <th colspan="2">英語</th> </tr> <tr> <th>尾鷲高校</th> <th>全国</th> <th>尾鷲高校</th> <th>全国</th> <th>尾鷲高校</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スタート回</td> <td>52.6</td> <td>67.5</td> <td>26.8</td> <td>45.5</td> <td>23.7</td> <td>46.5</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>46.6</td> <td>71</td> <td>39.8</td> <td>64.5</td> <td>21.7</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>※全国平均は工業科のみで集計された値</p> <p>【自己評価】 ×</p>		国語		数学		英語		尾鷲高校	全国	尾鷲高校	全国	尾鷲高校	全国	スタート回	52.6	67.5	26.8	45.5	23.7	46.5	第2回	46.6	71	39.8	64.5	21.7	35	
	国語			数学		英語																								
	尾鷲高校	全国	尾鷲高校	全国	尾鷲高校	全国																								
スタート回	52.6	67.5	26.8	45.5	23.7	46.5																								
第2回	46.6	71	39.8	64.5	21.7	35																								
<p>⑦ 人権感覚の醸成(人権教育推進委員会)</p>	<p>人権教育推進協議会(本校主催)、紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議(尾鷲市教育委員会主催)において、人権学習等の授業を公開する。そして、事後の意見交換会で出された課題について改善策を検討する。 【活動指標】 年3回の人権学習のうち、1学期と2学期の学習を公開し、事後の意見交換会を実施する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人権教育推進協議会は実施できず。 2月15日の第3回紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議の日に人権LHRを公開する予定 【自己評価】 ○</p>																												
<p>⑧ 生徒指導の充実(生徒指導部)</p>	<p>朝の挨拶運動や各種の集会、頭髪服装指導等において挨拶と身だしなみを徹底し、コミュニケーション力や社会人としてのマナーへの意識向上を図る。 【成果指標】 生徒アンケートで肯定的回答90%以上をめざす。</p>	<p>生徒アンケートにおいて、9割以上の肯定的回答を得ることができた。 【自己評価】 ◎</p>																												
<p>⑨ いじめの防止と早期発見(生徒指導部)</p>	<p>学年主任、担任、その他の関係教員(状況に応じ授業担当者・部活動顧問等)との連携を図り、いじめの防止や早期発見、早期対処に当たる。 【活動指標】 ・定期的に学年主任と懇談し、生徒の欠席日数などの確認と指導成果の検証を行う。 ・学期毎にいじめに関するアンケートを行う。</p>	<p>【自己評価】 ○ 7月と12月にいじめアンケートを実施し、その結果をふまえて学年主任、担任と情報共有して対応した。</p>																												
<p>⑩ 希望する進路(進学)の実現(進路指導部)</p>	<p>進学希望者に対する面談回数を増やすとともに、担任との進路検討会を年3回以上行う。 また、進路指導に関する企画を考え、実施し、教員の指導力向上に努める。 【成果指標】 ・国公立大学に7人以上の合格をめざす。 ・大学一般選抜で偏差値60以上の大学への合格をめざす。</p>	<p>※1月26日現在 ・国公立大学2名合格 ・私立大学29名合格(約30名が出願検討中) ・短大4名合格(3名が出願検討中) ・専門学校47名(看護17名)合格(100%) 【自己評価】 △</p>																												

	・短大・専門学校への進学希望者の合格率100%をめざす。		
⑪希望する進路(就職)の実現(進路指導部)	就職希望者への面談を強化し、希望職種と個々の生徒の適性ととのマッチングを図る。 【成果指標】 ・就職内定率100%をめざす。 ・公務員試験に複数名合格をめざす。	・就職希望者43名合格(100%) ・公務員1名合格 【自己評価】○	
⑫キャリア教育等の充実(進路指導部)	1・2年生のうちから進学・就職対策及びキャリア教育の充実を図る。 【活動指標】 1・2年生対象の進路ガイダンスや進路講話を実施する。	年間で約25回のガイダンス、講話、説明会を実施した。 【自己評価】◎	
⑬専門学科における進路指導(システム工学科)	3年生が希望する進路の実現をめざして、システム工学科全教員による個別面接や学力向上の指導を実施する。 【成果指標】 学校斡旋による就職希望者(システム工学科3年生)の100%内定をめざし、結果を昨年度の内定率と比較する。	内定100% 【自己評価】◎	

改善課題

- 1 授業等におけるICTの効果的な活用
- 2 新学習指導要領を踏まえた授業内容の再構築
- 3 専門学科での資格取得指導と基礎学力定着指導
- 4 人権教育推進組織の見直し
- 5 生徒指導の充実といじめ防止・早期発見及び情報共有
- 6 進路希望の実現のための体制づくりとキャリア教育等の充実

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①生徒に関する情報共有の徹底(生徒指導部)	週に1回部会を開き、その時々の課題を整理し、情報共有をすることにより、問題行動等の未然防止に努める。 【活動指標】 ・部会の回数(年30回) 【成果指標】 ・過去3年間の特別指導の延べ人数の平均を下回る。	定期的に部会を行い、情報共有を行なうことができた。過去3年間の特別指導回数(約7件)を今年度は下回ることができなかった(11件) 【自己評価】△	
②生徒会活動の充実(生徒指導部)	生徒会関係の業務進捗状況を部内共有し、協力体制を築く。 また、行事毎にアンケートを実施し、次回に向けて改善できる点を絞り込む。 【成果指標】 行事毎のアンケートでの肯定的回答80%以上をめざす。	文化祭においても、飲食店を開催するなど満足度の高い行事を行なうことができた。 【自己評価】◎	
③学校情報の提供(総務部)	学校運営が円滑に進むよう学校全体の動きを把握し、臨機応変の対応に努め、各部等との情報共有を密にする。	・通信紙「鷺高人」は昨年度とほぼ同数発行出来た。また、来年度の4月用の原稿も作成中。	

	<p>また、学校ホームページやブログの更新、パンフレットや通信紙の作成など、幅広い広報活動を通して学校の様子を地域に積極的に発信する活動によって、学校と地域との関係を深め、地域に根ざした学校づくりをめざす。</p> <p>一方では、学校の状況に合わせ、必要性の低い業務は積極的に削減していく。</p> <p>【成果指標】 学校ブログ及び学校通信「驚高人」の更新・作成頻度を前年度と比較する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログの更新も昨年度とほぼ同じ頻度で、平均すると月1回以上のペースで更新できた。3月までにクラブのページ等更新予定。 ・中学校への説明会を若手教員が直接説明に行くなどの取組もでき、少しは効果を感じられた。 <p>【自己評価】 ○</p>	
④人権教育の充実（人権教育推進委員会）	<p>保護者宛の人権通信「素心」を発行し、啓発活動を推進する。</p> <p>【成果指標】 年度末に発行回数や内容を検証する。</p>	<p>1学期末に発行した。</p> <p>【自己評価】 ◎</p>	
⑤教科会の効果的な活用（情報ビジネス科）	<p>毎回の教科会で授業内容についての協議や新カリキュラムにおける授業内容及び評価方法について検討する。</p> <p>【活動指標】 ・月1回、教科会を実施する。</p> <p>【成果指標】 ・観点別評価に対応した評価基準や評価表などを改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会の月1回の目標は達成できず。 ・観点別評価については、教科会で十分な検討がなされた。 <p>【自己評価】 △</p>	
⑥総勤務時間の短縮	<p>年間をとおして教職員の休暇取得の促進、業務の精選・効率化・平準化、時間外労働の縮減を図る。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に閉校日を計4回設け、いずれの日も80%以上の教職員が終日休暇を取得する。 ・月1回程度の定時退校日を設け、80%以上の教職員が定時退校する。 ・すべての部活動が週1回以上の休養日を設ける。 ・放課後に行う会議の70%以上を60分以内に終了する。 ・4～12月の休暇（年休＋特休）の取得日数を一人平均15日以上とする。 ・1人あたり時間外労働時間を月平均30時間以下にする。 ・月45時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする。 ・年360時間を超える時間外労働をする教職員を0人にする（4～1月の10か月間で300時間超となった人数を換算して検証する）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉校日を計4回設定。教職員が終日休暇を取得したのは65.4%（目標80%以上）。 ・月1回定時退校日を設定。定時退校した教職員は68.2%（目標80%以上）。 ・週1回以上の部活動休養日の実施率は99.2%（目標100%）。 ・放課後の会議で60分以内に終了したのは65.6%（目標70%以上）。 ・4～12月の休暇（年休＋特休）の取得日数は一人あたり平均20.8日。（目標15日以上）。 ・1人あたり時間外労働時間は月平均30.1時間。（目標30時間以下）。 ・月45時間を超える時間外労働を1回以上した教職員は対象52人中33人（目標0人）。 <p>【自己評価】 ×</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～1月の10か月間で300時間を超える時間外労働をした教職員は対象52人中24人（目標0人）。 	◎
改善課題			
<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒に関する情報共有の徹底 2 生徒会活動の充実 3 学校情報の提供 4 情報ビジネス科教科会の効果的な実施 5 教職員の時間外労働の短縮 			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の就職希望は少ないようだが、地域から1度は出ても、戻ってきてほしいという希望もある。地域としても協力していきたい。 ・SNSでのトラブルについては、情報モラルの指導も必要である。 ・進路指導について、子どもの幸せは地元と都会のどちらにあるのか、都会に行く方が生活弱者とならないのではないかと考えてしまう。人口減少の中でもしっかり仕事をして稼いでいる人もいる。そういう活動を紹介する活動も大切である。 ・授業で、生徒たちは落ち着いていてよかった。やはり少人数での授業はよい。 ・どの授業者もはっきりとした話し方で、大きな声で聞きやすかった。 ・授業の展開が速く、スムーズに進んでいるが、理解度にも留意する必要がある。 ・授業は昔のイメージとは違い、専門的なことをやっていて新鮮。力がつきそうだ。 ・共通テストの「情報」は大学進学にも対応できるようにする必要がある。 ・コミュニケーション力を身につけるには授業以外の課外活動や部活動も重要である。 ・遠足の実施については、生徒たちは大変喜んである。 ・部活動、スポーツなどの明るい話題を発信してほしい。 ・文化祭など、生徒が楽しく主体的に取り組める行事をさらに充実させてほしい ・ICTについては、小中学校でも端末を活用しており、数年後には使用に慣れた生徒たちが高校に入学してくる。教員による格差、学校間格差が大きくなるようにして、どの授業でも、どこの学校でも一定のレベルで取り組めることが求められる。 ・総合的な探究の時間における「まちいく」の取組は、生徒が自ら考え、協力し、意見を発表するなどの良い機会になっている。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一台端末をはじめとするICTの活用によって生徒の学習成果につながるような授業方法などについて、引き続き教職員間で研究・共有していく。 2 新教育課程での情報ビジネス科の授業内容の再構築について議論する。また、授業アンケートの実施について再検討する。 3 システム工学科での資格取得促進のため、検定試験の全員受験指導に取り組む。また、基礎学力定着のため、D3対象者だけではなくクラス全体を対象に、授業や補習などでの対策を確実にこなす。 4 人権教育の充実のため、人権教育推進協議会と紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議との位置づけの整理を検討する。 5 生徒指導に関するオンラインアンケートへの回答を期日までに収集できるよう、SHRの活用など、実施方法を工夫する。また、いじめについて積極的に認知するとともに、事前指導、事後指導、経過観察など情報共有を密に行なう。 6 生徒の進路希望実現のため、進路指導部と学年団との連携をさらに密にして、協体制度を強化する。また、継続的な進路情報の提供、計画的な企業見学、就職内定後の指導強化に取り組むとともに、進路ガイダンス等の日程調整にも留意する。 7 生徒には「挨拶」ができることを重点目標にしてきたが、委員からもお褒めいただいたように、よくできてきている。挨拶の根底には自己肯定感が必要であるとの認識を持って、今後も生徒に関する教育活動に取り組みたい。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の充実のため、生徒指導部と職員室等の情報共有を一層進める。また、講話や啓発活動などを積極的に実施し、生徒の規範意識を醸成する。 2 生徒会執行部の生徒を中心に、学校行事の工夫や校則の改善などに取り組む。 3 ホームページの更新に総務部員全員が対応できるようにし、更新回数を増やす。内容面でも、主に中学生が興味を持てるよう、学校全体に協力を求めながら様々な角度（特に部活動）からブログ等に情報を掲載する。「驚高人」は、発行回数を増やすよりも、発行時期などを考慮した効果的な情報発信となるよう早めに準備する。 4 情報ビジネス科の教科会については、各学期2回程度を目標に、質の充実を図る。 5 教職員の時間外労働の短縮のため、業務の精選・簡素化・効率化に取り組む。 6 教職員間の「報・連・相」は、各部内でも細かいことまで共有するのはなかなか難しいが、管理職への報告はスピーディである。引き続き重点目標としたい。